



大原中だより

校 訓 「歴史を拓く」

学校教育目標 はつらつとした生徒、地域に輝く学校

ホームページ : <https://ohara-j.saitama-city.ed.jp/>

さいたま市立大原中学校

TEL 048-831-5397

FAX 048-835-1357

第 10 号

令和6年2月1日

年度の終盤を迎えて

校長 岡村 洋彦

令和6年も1か月が過ぎました。4月当初には、多くの学級で今年度の目標等を生徒自ら設定する取組を行っています。そして、年度末を迎えた2月、3月のまとめの時期に、立てた目標に対してどのように取り組めたかを振り返る学級も多いです。ご家庭でも、お正月に一年の計を立てられた方もいるかと思います。私自身も、いくつかの目標を立てていますが、立てたのはいいいですが、目標に向かって一日一日を過ごすことは簡単なようで難しいことだと感じています。目標実現に向けて努力を重ねていきたいと考えています。

ところで日本では古くから「初心忘るべからず」という言葉があります。これは室町時代の能楽者、世阿弥が考えた言葉だとされています。今では「最初の志を忘れてはならない」という意味で捉えている人が多いと思われます。しかし、世阿弥が意図とすることは少し違っていたようです。「初心」とは、「初心者」の初心のことを指しており、未熟であったときのことを言っています。何かに取り組み始めたときの上手いかなかったときの記憶や、そのときに味わった悔しさや恥ずかしさ、そこから努力を重ねて今に至ったことを忘れてはいけないとのことです。「初心を忘れるな」とは、人生の苦難や試練の時に、どうやってその苦難や試練を乗り越えていったのかという経験を忘れるなど言い換えることもできるでしょう。子どもや大人に限らず、目標を立てることは簡単です。しかし、その目標達成に向けての過程が重要であり、簡単に達成できる目標よりも、そのハードルが高ければ高いほど達成した時の成就感や達成感を味わうことができ、さらに次のステップアップにもつながります。反面、人によってはいきなり高い目標を設定してしまい途中で諦めてしまったり、挫折してしまったりすることがあります。また、目標そのものが「絵に描いた餅」となり、意識することすらなくなってしまうこともあります。スモールステップでも、まずは目標を達成し、自信をもつことが大切です。同時に、時には挫折を味わい、それを糧にしていくことも必要です。物事が始めから全て上手くいくとは限りません。諦めずに挑戦し続けることで挫折を乗り越える経験は、より大きな自信をもつことに繋がります。数多くの成就感や達成感を味わうことによって、それが自信となり次へのチャレンジにつながっていくものです。

また、学習のまとめはもちろん、心や体の準備も忘れてはなりません。規則正しい生活を送り、今学期を終了することが、進級・進学準備となります。自分のよさを自覚し他者のよさや個性を受け入れること、そのために感情的ではなく、コミュニケーションをとおして相互理解をすることなど、心と体を整えておくことも大切です。

今年度の終盤を迎え、より一層学校生活が充実したものになるように、これからも教職員一同つとめてまいります。

大原中の生徒には、一人ひとりが自らのテーマと向かい合い、残り少ない3学期も、新たなチャレンジと様々な経験を重ねてほしいと願っています。

